

別表第1 (第5条関係)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	学校教育バックアップ事業費									
担 当 課 係 名	学校教育課		課	教育研究室	係	作成者	井上一彦			
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち					総合計画のページ			
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備								
	主要施策	地域に開かれた特色ある学校教育の推進					93			
予 算 費 目	一般	会計	10 款	教育費	1 項	教育総務費	2 目	事務局費		
事 業 期 間	平成	年度	～	平成	年度	新規／継続の区分		新規		
性 質 区 分	☒	市民サービス	☐	公共事業	☐	施設維持管理	☐	補助金	☐	内部管理
根 拠 法 令 等										
事 務 区 分	☒	自治事務	☐	法定受託事務						
運 営 方 法	☒	直 営	☐	直営（一部民間委託）	☐	民間委託（全部）	☐	補 助		

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内小・中学校の児童・生徒
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	学校教育へのバックアップ活動を通して、教育活動の円滑な実施に寄与するとともに、仙北市民等の学校教育への理解を深め、社会貢献への意欲を培う。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	①読み聞かせ活動、授業等への支援などの学習活動バックアップ ②花壇・農園作業への指導・補助などの環境整備バックアップ ③その他のバックアップ

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	ボランティア人数	目標	人			29	
			実績	人			29	
			達成度	%			100.0%	
	成果指標	ボランティアのべ回数	目標	回			290	
			実績	回			399	
			達成度	%			137.6%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)						193	
	人 件 費 (B)		—				1,981	
	職 員 数		—				0.25	
	職 員 平 均 人 件 費		—				7,925	
	(A) + (B) 投下コスト						2,174	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						0
		県 支 出 金						0
		地 方 債						0
		そ の 他						0
		一 般 財 源						2,174
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—				74,966	
	市民1人当たりのコスト(円)		—				70	

【事務事業の今までの成果】

ボランティアスタッフの学校教育バックアップにより、教育活動の円滑な実施が行われ、教育的効果を上げている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	教育諸活動において、家庭や地域の人々との連携を深めることを重視している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	子や孫のいる学校、地域の学校へ教育活動に理解を示し、教育活動への参画や協力をしたいと願っている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	事業が20年度から始まったばかりであるが、教育的な効果はたいへん大きい。事務的な作業の効率化が図られるようにしていきたい。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	教育活動の地域との連携や特色ある学習活動の展開といった観点から、引き続き必要な事業であると考えます。

一次評価診断図

